

災 害 医 学

1 担当教員名

【 研究指導教授 】 教授 津 田 雅 庸

【 科目担当者 】

2 教育目標

(1) ねらい

- ・災害のタイプと特性を知る。
- ・大規模災害における医療従事者としての役割を理解する。

(2) 学修の到達目標

- ① 大規模災害発災直後から復興期までの医療支援のあり方を説明できる。
- ② 災害発災直後の自助、共助、公助の概念に基づく被災者への対応に配慮できる。
- ③ 医療機関に加え行政機関を交えた災害訓練の企画・運営に参加できる。
- ④ 実災害時の医療支援チームリーダーに求められる対応を適切に実施できる。

3 授業内容

【 講 義 】	災害医学概論，大規模災害時の理論，局所災害対応の理論，中長期的災害支援の課題等につき解説する。
【 演 習 】	過去の災害事例に基づく医療支援を振り返り，問題抽出と課題解決に向けたグループ討論を行う。
【 実験研究 】	今後予想される南海トラフ大地震など大規模災害への備えとして，数多くの利用しうるデータを参考に，よりよい医療支援のあり方を探る。

4 成績評価の方法・基準

1. 実習態度やレポート提出を通じて，基本的な知識の習得について評価する。
2. 研究遂行上の手順・手法の理解度を評価する。
3. 論文作成上の理論的思考と完成度を評価する。

5 教科書・参考図書

特になし

6 準備学習(予習, 復習等)及び必要な時間

事前にテキストの事例などに目を通しておく。(1週間に7時間程度の予習・復習が望ましい。)
事前に行政発出の災害医療関連資料・通知, メディア記事などに目を通しておく。

7 課程修了・学位授与方針と当該授業科目の関連

災害医学に関する論文作成を通して, 災害発生直後の超急性期, 急性期対応のみならず亜急性期, 慢性期, 復興期のすべてのフェーズにおける医療支援について, 社会医学の視点から課題の抽出と解決策を示し, 適切な災害対応能力を修得できる。

8 課題(試験・レポート等)に対するフィードバック方法

講義, 実習中に疑問点の解説, レポート内容の評価等フィードバックを行う。
レポートは厳格な評価後に返却されるが, 内容に不足・誤りがある場合は再提出を求める。

9 履修上の留意点

災害医学は医療従事者(とりわけ医師)にとって, 関心が薄い領域であるとの指摘は否定できない。
しかしながら, 国難とも言える大規模地震が発生すれば, 必ずや災害医学に精通した人材が求められる。
かかる状況を十分に理解し, 気概を持って履修することを切に望む。

10 オフィスアワー

職名	氏名	曜日	時間帯	場所	連絡先
教授	津田雅庸	火水木	15:00~17:00	救急・災害管理棟 3階教授室	内線 35352